学校番号	１０１０

令和５年度　家庭科

教科	専門 家庭	科目	子どもの発達と保育	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「子どもの発達と保育」　（実教出版）						
副教材等	子どもの発達と保育　学習ワーク　（実教出版）						

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・将来的に幼児教育に関わりたい人はもちろんのこと、自分自身の成長や発達の過程に興味関心のある人や子どもを育てる上での基礎知識をはぐくみたい人は積極的に参加してください。
・専門的な知識について理解を深め、実践的･体験的な実習を通して学習し身に付けます。
遅刻･欠席等が多いと単位修得が難しくなります。

２ 学習の到達目標

・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育に関する知識と技術を習得する。
・乳幼児の健全な成長に関心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	子どもの身体的･精神的発達や保育に関して関心を持ち、それらを意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	子どもの発達の特性や発達過程などに関わる幅広い知識を身につけ、子どもの発達、行動、感情、生活などについての理解を深めることが出来る。これらに関する自身の考えをレポートなどで表現出来る。	子どもの発達や保育に関わる事柄について、実習や観察を通じて知識を深めることが出来、子どもを取り巻く問題について推測･考察が出来る。	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し、子どもの行動や生活に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 学習ノートの記述 製作計画 実習記録表 レポート、発表 自己評価　等	学習状況の観察 学習ノートの記述 製作計画、実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 学習ノートの記述 写真、製作品 観察記録表 レポート、発表 定期考査、実技テストの結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 学習ノートの記述 製作計画 実習記録表 観察記録表 レポート、発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4・5月	子どもの発達の特性と過程	○ 発達と乳幼児期の意義 ・ 発達と保育環境 ○ 子どもの発育 ○ 人間関係の発達 ○ 調理実習	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	a: 人間の発達に関して興味関心を持ち、特に乳幼児期の発達についての概略を学ぼうとする意欲が見られる b: 歴史的な経過を踏まえながら子どもの発達観について考察し判断出来る c: 自分自身が現在どのような自動観・発達観を持っているのかを客観的に分析・考察し学習の動機付けとすることが出来る d: 人の一生を生涯発達として捉え、特に乳幼児期が大切な時期であると理解出来る。	授業観察 学習ノート 授業プリント 定期考査
6・7月	子どもの生活	○ 子どもの遊び ・ 被服実習 おもちゃ製作 ○ 生活と養護 ・ 生活と健康	○ ○	○ ○	○	○ ○	a: 子どもの生活全般（健康・食生活・衣生活・遊びなど）について広く関心を持ち理解しようとする態度が見られる。 b: 子どもにとっての適切な生活条件について思考し、子どもの養護全般について応用することが出来る。 c: 子どもの生活を養護するために必要な技能を実習を通して身につけている。 d: 子どもの生活全般において子どもが健康で安全に生活するために必要な知識と技術を具体的な方法をして身につけている。	実習記録 実習レポート 製作物 学習ノート 文化祭展示 定期考査

7・8・9月		○　保育実習 　　保育の意義と重要性 ○　家庭保育と集団保育 ○　生活と養護 ・ 生活と健康 ・ 栄養と食事 　　幼児のお弁当作り ・ 食習慣の形成 ＊　調理実習	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○ ○	a: 集団保育と家庭保育の観点から子どもを保育する意義について　学ぼうとする意欲が見られ、自身を子どもを取り巻く周囲の大人として捉え果たすべき役割などについて考えようとしている。 b: 集団保育・家庭保育、それぞれにおける場面での子どもとの適切な関わり方について理解を深めることが出来る。保育園実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析し、それらをレポートなどの形式でまとめることが出来る。 c:保育園実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析出来る。 d: 保育の意義や重要性について理解出来る、保育の場として家庭保育と集団保育があることを知識として習得し、それぞれの特徴や役割を理解している。	定期考査
11・12月	子どもの保育	○　保育の方法 ○　子どもの精神発達 ○　人間関係の発達 ○　生活習慣の形成 ○　健康管理と事故防止 ○　調理実習	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 集団保育と家庭保育の観点から子どもを保育する意義について　学ぼうとする意欲が見られ、自身を子どもを取り巻く周囲の大人として捉え果たすべき役割などについて考えようとしている。 b: 集団保育・家庭保育、それぞれにおける場面での子どもとの適切な関わり方について理解を深めることが出来る。保育園実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析し、それらをレポートなどの形式でまとめることが出来る。 c:保育園実習を通して子どもの生活や行動などを観察し、客観的に分析出来る。 d: 保育の意義や重要性について理解出来る、保育の場として家庭保育と集団保育があることを知識として習得し、それぞれの特徴や役割を理解している。	授業観察 学習ノート 授業プリント 定期考査

12・1月	子どもの福祉	○ 子どもの福祉 ○ 子育て支援 ・ 社会的支援の必要性 ○ 授業振り返りレポート	○ ○ ○	○ ○ ○	○	○ ○ ○	a: 人権の観点から児童福祉に関する考え方や法律・制度・機関等について興味関心を持っている b:子どもを健やかに育てていくためには具体的な施策が必要であることがわかり、今後の施策の方向性などを判断することが出来る。現代における子ども・子育てにおける問題点や課題について自身の考えを述べることが出来る。 c: 現代における子ども・子育てに関わる問題点や解決について自身で情報収集することが出来る d: 児童福祉の考え方やそれに関わる制度を知識として習得している.それらを踏まえて子どもや子育てを取り巻く問題点や課題にまで踏み込んで分析し望ましい方向性について理解している。	授業観察 学習ノート 授業プリント レポート 発表

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現 c:技能 d:知識・理解

※ ＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。